10 熊本・鹿児島地区住民における動脈硬化性疾患に対する危険因子の長期追跡研究

研究代表者名：小川久雄[1]
共同研究者名：副島弘文[1]、河野宏明[1]、丸林　徹[2]、合志秀一[3]、片山功夫[4]、入佐孝三[4]
施　設　名：熊本大学大学院循環器病態学[1]、日本赤十字社熊本健康管理センター[2]、多良木公立病院総合健診センター「コスモ」[3]、菊池養生園診療所・菊池広域保健センター[4]

人口の高齢化とライフスタイルや栄養状態の欧米化により動脈硬化性疾患は増加してきている。特に近年耐糖能障害者が増加しており、このことが動脈硬化性疾患の増加に拍車をかけている。これらの患者のQOLや予後を考えると、心血管事故の一次・二次・三次予防・心臓突然死への対策など総合的な戦略が必要になってきた。欧米における動脈硬化性疾患発症に対する危険因子の大規模研究の報告はあるが、我が国での同様の研究に対する報告は少ない。本研究では、動脈硬化危険因子のみならず運動習慣や食習慣など生活習慣まで調査を行い、そのデータを蓄積している。これらは通常の住民検診では得ることのできないデータであり、これらが加わることで多くの解析が可能となった。

今回は現在までの追跡調査を行った3つの地域についての報告をまとめて行う。球磨地域2,814人の内訳は男性1,264人（平均年齢59±11歳）女性1,550人（平均年齢60±10歳）であった。菊池地域の3,371人の内訳は男性1,121人（平均年齢68±11歳）女性2,250人（平均年齢65±12歳）であり、球磨地域で年齢が若く男性の比率が多くなっていた。阿蘇地域569人の内訳は男性256人（平均年齢63±11歳）女性313人（平均年齢63±11歳）であり、阿蘇地域の受診者の年齢は菊池地域と球磨地域の間であり男性の比率も菊池地域と球磨地域の間であった。球磨地域の受診者は男性受診者、女性受診者とも60代がもっとも多く、続いて70代、50代と続いた。一方、菊池地域の女性受診者は60代がもっとも多く、続いて70代、50代となり、球磨地域と同様であったが、男性は70代受診者が最も多く、続いて60代となっており、40代、50代の男性受診者は極端に少なくなっていた。阿蘇地域の男性受診者は70代が最も多く50代と60代がそれに続いた。阿蘇地域の女性受診者は60代がもっとも多く、続いて70代、50代となり、球磨地域と同様であった。血圧について検討したところ収縮期140mmHg未満かつ拡張期血圧90mmHg未満を正常血圧とすると球磨地域では2,814人中2,006人(71.3%)が正常血圧であった。一方、菊池地域では正常血圧であった受診者は3,371人中2,229人（66.1%）で受診者の平均年齢が低いため球磨地域では正常血圧者が多かったと思われた。平均年齢は菊池地域と球磨地域の間にあるが、阿蘇地域では289人(50.8%)と正常血圧者の割合が最も低かった。

血清総コレステロールレベルは球磨地域200±34mg/dl、菊池地域206±35mg/dl、阿蘇地域193±33mg/dlで阿蘇地域で最も低かった。年代別では球磨地域、菊池地域、阿蘇地域のいずれでも50代、60代で高くなっていた。血清中性脂肪レベルは球磨地域106±79mg/dl、菊池地域130±86mg/dl、阿蘇地域103±52mg/dlで阿蘇地域で最も低かった。年代別では球磨地域では40代、50代で高くなっており、菊池地域では60代、70代で高くなっており、阿蘇地域では50代、60代、70代で高くなっていた。HDLコレステロールレベルは球磨地域55±13mg/dl、菊池地域で60±15mg/dl、阿蘇地域64±15mg/dlで球磨地域で最も低くなっていた。年代別では球磨地域では40代、50代、80代で高くなっており、菊池地域では40代、50代で高く

なっており、阿蘇地域では50代、70代、80代で高くなっていた。LDLコレステロールレベルは球磨地域124±31mg/dl、菊池地域120±32mg/dl、阿蘇地域109±30mg/dlと球磨地域で最も高くなっていた。年代別では球磨地域と阿蘇地域では60代で高くなっており、菊池地域では50代、60代で高くなっていた。

このような3つの地域の受診者の集団6,753人において心疾患62人と脳疾患79人と死亡82人（脳疾患と心疾患で3人づつの死亡を含む）の発症が認められた。心疾患62人の内訳は29人が急性心筋梗塞であり、33人が狭心症であった。脳疾患群79人の内訳は57人が脳梗塞で17人が脳出血であり、くも膜下出血2人、脳卒中3人となっていた。死亡群82人の内訳は原因不明の突然死2人と脳卒中突然死1人と動脈瘤破裂による死亡2人と脳出血による死亡2人と急性心筋梗塞による死亡3人および心血管疾患に関連のない死亡72人であった。脳梗塞の後、急性心筋梗塞を起こした患者1人、急性心筋梗塞を起こした後脳梗塞を起こした患者1人を認めたがこれは初めに起こした疾患群に入れて計算した。このように、本研究では心血管イベントの追跡調査をしており種々の因子との関連を検討することは動脈硬化発症の予後規定因子の検索にはなくてはならないものである。本研究は得られている情報が多く多面的な検討が可能であるため、非常に重要な意義があると思われる。